

※中日新聞東京本社の承認を得てテキストを PDF 掲載しています。無断転載を禁止します。(大道塾総本部)

今から始めれば次の次の五輪に出場できる!? そんな夢が実現しそうな競技がある。空手と柔道を組み合わせながら安全にも配慮したという総合格闘技「空道(くうどう)」だ。先ごろ、第2の五輪と目される「ワールドゲームズ(WG)」の代表団が来日し、同競技の正式種目への採用を検討するため都内でデモンストレーションマッチを視察。WGの先にある五輪の正式種目化に向けて第一歩を踏み出したが、一体、どんな競技なのか?(高橋謙太)

(オリジナル防具)

4月19日、東京・永田町の衆議院第二議員会館柔道場。畳の上では白と青の空手着を身にまとった選手が対峙(たいじ)していた。顔面には安全性を考慮したオリジナル公式防具「NHG空(ネオヘッドギア・クウ)」、手には拳を保護するための拳サポーター(フィスト・ガード)が装着されている。国際空道連盟会長を務める鳩山邦夫衆院議員らの後押しで開催されたWG代表団へのデモンストレーションマッチだ。

試合が開始されると、両選手は顔面やボディーに強烈なパンチやキックを見舞うだけでなく、投げ技、寝技と息つく暇のない攻防を展開し存分に空道の魅力をアピールした。約1時間にわたる、ルール説明と白熱した4試合は好印象を与えたようで、視察を終えた「国際ワールドゲームズ協会(以下IWGA)」のロン・フローリック会長は、「観衆に分かりやすい競技だ。(安全ための)防具も良い」と感想を語った。

(WG採用に2年)

空道はすでに51カ国以上に普及し、WGの参加条件をクリア。来年のWGはコロンビア・カリで開催されるが、昨年2月に同国の実行委員会からWG参加の要請があったという。

今月8日付けで、JWGA(日本ワールドゲームズ協会)から入会を承認されたものの、WGに採用されるためには、スポーツアコード(国際競技連盟連合)、アンチドーピング委員会、スポーツ仲裁裁判所などへの加盟が認証される必要があるが、申請から2年ほどかかってしまうという。

このため、フローリック会長はコロンビア大会では正式種目ではなく「記念競技」といった形式でも発表の場を作りたい意向という。

(来年お披露目も)

では、そんな空道とは、どんな競技なのか?

空道を創始した武道家の東孝さん(62)は「簡単に言うと、柔道と空手を合わせたような総合格闘技」と説明。空手家だった東さんは「体格のいい外国人と対等に戦うには、顔面の打撃がないときついし、投げや寝技があれば倒せる可能性が高まると思い始めた」という。また、安全への配慮もされているのが特徴だ。

01年の第1回世界大会開催を機に競技名「空道」を名乗った。

「『空』は『すべてを含んでひとつにこだわらない』という意味がある深い文字。競技の技術体系そのものを現しているし、打撃、寝技にこだわらない柔軟性を持つことを示す。外国人選手には『オープンマインド』と説明している。空道にしてから一気に外国人選手が増えた」(東さん)

第1回世界大会は23カ国の参加だったが、09年開催の第3回世界大会には57カ国が参加。道場生は日本が約1万人、最も盛んなロシアが約3万など世界で約8万人を抱えるが、競技の理念として掲げるのは「社会体育」の概念だ。

「柔道とか剣道のように社会に根付き、強くなる過程でつくった精神なり肉体なりで社会に貢献することが目的。ただ強さを求めるだけではない。だから、サラリーマンなどの社会人が仕事をしながら大会に参加することは非常に大きな意味がある」と競技人口の拡大をもくろむ。防具付きということもあり、今から五輪を目指そうという人が出てくるかもしれない。

13日には階級別の全日本大会が空道発祥の地・仙台市で開催される。東さんらは空道の公式イメージソングを制作するなどPRに力を入れており、今後、注目を浴びそうだ。

◆空道 元極真空手全日本王者の東孝さんが81年2月に仙台市で創設した「大道塾」が確立した、空手と柔道を組み合わせた着衣・防具の総合格闘技。東さんは国際・全日本空道連盟理事長および大道塾塾長。顔面攻撃を含めた突き、蹴り、ヒジ打ち、ヒザ蹴り、頭突き、金的攻撃、投げ、関節・絞め技ができる。試合時間は3分間で、寝技は30秒を2回までできる。勝敗は、打撃および絞め・関節技での1本勝ちかポイントによる判定で決まる。多くの格闘技で階級は体重別だが、空道では身長（cm）+体重（kg）の「体力（身体）指数」で分かれているのが大きな特徴で、軽量級（230未満）、中量級（230以上240未満）、軽重量級（240以上250未満）、重量級（250以上260未満）、超重量級（260以上）の5階級。

◆ワールドゲームズ 国際ワールドゲームズ協会（IWGA）主催、国際オリンピック委員会（IOC）後援で4年に1回、夏季五輪の翌年に開催。開催競技となる条件は▽国際スポーツ団体総連合とIWGA加盟競技▽五輪に採用されていない▽世界の4大陸40カ国以上に協会がある▽3回以上の世界大会・選手権などが開催されていることで、「第2のオリンピック」と呼ばれる。これまでに採用されたバドミントン、トライアスロン、テコンドーなどが五輪種目に昇格した。

（魅力と安全性を強調）

国際空道連盟会長・鳩山邦夫氏

国際空道連盟会長の鳩山衆院議員は「私たちは空道をいずれオリンピックの種目にしたいと考えております」と力説。今回本紙に寄せたコメントで、「すごく迫力のある競技で、鍛錬を積めば精神的にも鍛えられる」と空道の魅力を説明、「顔面も安全で、ボクシングのようにグローブで殴り合う競技ではないので、脳へのダメージも抑えられる」と安全性が高いことも強調した。